

3年経過した神川橋下圃場は課題満載、今後の活動を考えてみました…!

’14年2月1日(土)～’14年3月31日(月)
相模川湘南地域協議会 記録:中門吉松

1月に採種を終えた圃場は霜枯れしたロゼットが春の陽射しを待っている状況は、1年目から3年目まで同様にロゼットには大きな変化は見られない。そこで今回は、3年が経過した時点で大きく変化してきた第1圃場の現状について紹介し、下流域での課題(土砂堆積)を考えてみることにした。

1) 第1圃場の変化



2012年3月3日...1年目



2013年3月12日...2年目



2014年3月10日...3年目

5月播種、6月発芽後に年間5回の冠水(日数は約13日)でシルトの堆積が見られる。

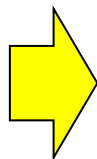
年間3回の冠水(日数約7日)があったが、1年目に比べてそれほど大きな変化はない。

雑草が増えると冠水時に土砂が堆積し、更に雑草が侵入し易くなり急激に草原化に向かう。

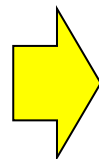
2) 2013年度、急激に土砂の堆積が多くなったのは台風18号(9/15～17圃場冠水)での土砂流下影響が大きい。



土砂、特に泥の堆積が多く(約5cm)玉石を覆い尽くした。台風は土砂流下が多い。



乾燥して半乾きの時点では、手で堆積部分を剥がすことができる。



堆積土砂除去することで、カワラノギクが好む貧栄養に近い状態を復元できる。

圃場の堆積土砂対策は、ひび割れ時に除去が最良

3) 土砂が堆積し繁茂した雑草(セイバンモロコシ)について



(秦野から参加の菅沼さんが調べられた)
【セイバンモロコシについて】

- ・特定外来生物に指定
- ・セイバンモロコシは単子葉植物イネ科モロコシ属の多年生植物である。草丈は0.5-2m程度になり、地下の根茎を伸ばして群生する。葉は細長く縁はざらつかない。夏から秋に円錐花序の多数の小穂をつけた15-50cmの穂を出す。小穂には毛があり、長さ4-6mmで有柄と無柄のものが混じる。
- ・地中海地域のヨーロッパ中東原産で1945年頃に侵入した帰化植物である。
- ・根茎、種子の両方で繁殖するため、畑地・牧草地の強害雑草



4) 圃場に繁茂した雑草対策・・・相模川湘南地域協議会運営委員会で検討し実施内容

①雑草抜き取りについて実施すること（峯谷代表より展開）

- ・圃場にはびこる雑草「センザンモロコシ」が 繁茂しています。成長して抜けなくなる前に今のうちに除草をしたい。
- ・実施方法・・・ばらばらで行うのもさびしくて元気が出ないので、3月、4月の各日曜日9:00～ 雨天中止 で実施。
- ・雑草繁茂の現状・・・雑草は、下流から上流に向かって多くなり、第一圃場は悲惨な状態。(シルト層の厚さに比例している感じ。)
- ・除去方法・・・効率のよい第三圃場から始めて、第一圃場は余裕があれば実施する。

倉本先生の話では、新しいところで元気が出る植物なので、古いものより、新しいものを大事にする方が効率が良いとのこと。(2/11(火)見学時) 実験的にやってみた実感・・・雑草が昨年秋の大水で運ばれたシルト層内にかがしりと根を張っている。

雑草を抜くよりはシルト層ごと剥がす方が簡単です。

抜き取り実験した結果では、地表5cmぐらい下のシルト層の下をモグラのように地表に沿って指先で横に掘っていく感じです。

写真右の「シルト層除去後の圃場」黒の○が除去されたシルト層、ピンクの丸シルト層の下から顔を出したカワラノギクです。

鬼怒川でのカワラノギク交流会で、圃場内は雑草などを放置しないで貧栄養にすることを指導を受けた。⇒シルト層(等の栄養物)を除去。

栄養分は、カワラノギクにとってもいいかもしれませんが、他の植物にとってはもっとよく、結果カワラノギクが負けていなくなる。

雑草を抜くというよりは、シルト層を効率よく剥ぐために雑草を利用する感じで実施する。

5) 当面の圃場及び圃場周りの雑草除去について

- ・除草は外来植物が結実する前に手作業で抜き取る。・・・定例の毎月第3日曜日(9時～)に加え、第1日曜を当面の間実施する。
- ・シナダレスズメガヤのように成長の早い外来植物は緊急対策として結実する前に刈り取り実施する。・・・年3回程度刈り取り要す